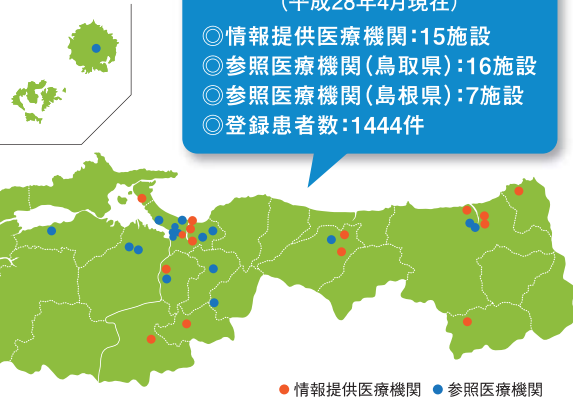


おしどりネット概要

(平成28年4月現在)

- ◎情報提供医療機関:15施設
- ◎参照医療機関(鳥取県):16施設
- ◎参照医療機関(島根県):7施設
- ◎登録患者数:1444件



「おしどりネット」のいいところ

- ◎治療経過や効果について、かかりつけ医からわかりやすく説明が受けられる
- ◎検査や薬投与の重複を防ぐ
- ◎切れ目のない、スムーズで継続的な治療が受けられる

患者さんはこれまでそれぞれの医療機関で検査を受けたり、病気の症状や飲んでいる薬について、自分で伝える必要がありました。一方「おしどりネット」に登録されると、連携を希望された医療機関同士が電子カルテを共有し、患者さんの情報を確実に把握でき、より効率的で安全な医療の提供につながります。

「おしどりネット」は、同意いただいた患者さんの電子カルテ(診療情報)を接続医療機関の間で閲覧できるネットワークシステムです。電子カルテには、診断や治療内容、CTや超音波エコーなどの画像および検査データ、薬の処方、そして医師や看護師による日々の記録などが記されています。

病院間や病診間における患者情報のやりとりは紹介状や診療情報提供書が、その役目を果たしています。「おしどりネット」では、患者さんに関するほとんどの診療情報が時系列にリアルタイムで把握でき、患者さんの経過や症状を詳細に知ることができます。そのため、患者さんへの継続的な治療が可能となり、また受入れ準備にも有効です。

患者情報を診断、治療に活用、
患者さんの負担も軽減できる

診療情報が共有されることにより、みなさんの病状がより深く理解されるようになりますよ。



医療情報部
近藤博史 教授

おしどりネットでつなぐ、地域医療連携

電子カルテを共有し、 安全な医療を提供する



患者さんを中心に、
ネットワークは県境を越える

「おしどりネット」は、平成21年に鳥取大学医学部附属病院と西伯病院との電子カルテ相互参照システムとして運用をスタートしました。その後、より広域での情報共有を目標に、システムを更新するとともに、参加病院を順次増やしてきました。平成28年4月現在、鳥取県内では15の情報提供医療機関の電子カルテを31の接続医療機関(うち16が参照医療機関)が閲覧し、活用しています。

そして、今年の4月より島根県の「まめネット」(島根県における同様のネットワークシステム)の一部医療機関が、「おしどりネット」の参照機関として加わりました。県境を越えての接続は全国でも珍しいことですが、地域の方々が住み慣れたところで医療を受け、安心して暮らしていくためには、今後このような医療機関同士の情報ネットワーク連携が欠かせないものになっていくと思われまます。そして、在宅医療や介護システムとの連携や、救急医療支援を視野に入れ、地域全体の医療の質向上を目指してまいります。

登録手順

- 1 「おしどりネット」接続医療機関の医師が患者さんに「おしどりネット」について説明します。
- 2 「おしどりネット参加同意書」に患者さんと医師が必要事項を記入します。(患者さんに連携を希望する医療機関を選んでもらいます。)
- 3 「おしどりネット」に患者登録し、連携先病院に名寄せ依頼をします。
- 4 連携先病院は、患者確認、自院の患者番号と紐付けます。
- 5 完了後、電子カルテ情報が参照可能に。

好評です。

また「おしどりネット」に接続すると、患者さんの病歴や治療歴がさかのぼってわかります。これらの情報があるおかげで、患者さんに対し適切な対応ができています。それから、患者さんや家族が、入院先の病院で聞きもらしたことがあつて困ったり、病気に対する不安などがある場合、私が電子カルテを見て、補足説明することができると、皆さん納得され、安心して帰られます。「おしどりネット」は、複数の医療者が経過を見守り、治療をしていくので、患者さんにとっては大きな支えとなります。医師や病院がより身近な存在に感じられると

平成26年10月より、鳥大病院の近藤教授(医療情報部)に勧められてつなぎました。開業医の場合はパソコンとインターネット回線さえあれば、始められます。

当時、うちに急患でこられた患者さんを鳥大病院で診てもらったことがありました。患者さんのその後が心配だったので、患者さんとその家族に「おしどりネット」のことを説明し、登録の同意をいただきました。ネット上で患者登録と名寄せを鳥大病院に依頼すると、病院側で患者の確認がされて、直後より電子カルテや画像の閲覧ができました。そこで急患で送った患者さんの診断結果や手術前後の様子等をいち早く知ることができたのです。その上、鳥大病院の先進診療が確認でき、大変勉強になりました。



飛田義信 院長

当院では
「おしどりネット」を
活用してます

飛田医院(西伯郡伯耆町)
飛田義信院長に
伺いました。



「平成28年熊本地震」 被災地に向け、DMAT隊を派遣

平成28年4月14日以降、相次ぐ地震で甚大な被害が出た熊本県支援のため、鳥取DMAT指定医療機関の一つである当院は、鳥取県知事からの要請を受け、4月16日に1次隊、18日に2次隊を派遣しました。(1次隊、2次隊とも医師2人、看護師2人、調整員2人、計6人のチーム)

現地入りした1次隊は熊本赤十字病院の指揮下に入り、患者の搬送や夜間業務を担当し、2次隊は阿蘇医療センターを拠点に活動し、本部機能の支援や、避難所などの巡回を行いました。派遣期間中は当院においてもDMATスタッフがこれまでの訓練をいかし、被害や交通の状況など情報を収集。把握した内容を現地隊員へ連絡し、活動をサポートしました。

災害派遣医療チーム(DMAT)とは、「災害急性期に活動できる機動性を持ち、専門的なトレーニングを受けた医療チーム」と定義されます。医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職者および事務職員)で構成され、大規模災害や多数傷病者が発生した事故などの現場に急性期(おおむね48時間以内)に到着し活動します。

鳥取大学医学部・附属病院では、救命救急センターのスタッフを中心に、DMAT隊員として47人が登録しています。(医師11人、看護師23人、薬剤師4人、診療放射線技師1人、臨床工学技士2人、管理栄養士1人、理学療法士1人、事務職員4人/H28.4.1現在)

災害発生時は、迅速で的確な対応が求められるため、隊員たちは、日頃より研修や訓練を積んでいます。



診療科の枠を越え 難病を診療

中四国地方で初

「結節性硬化症」診療チームを結成

当院では、てんかんや皮膚の白いあざ（白斑）など、体にさまざまな症状が出る遺伝子の異常による難病「結節性硬化症（けつせつせいこうしょう）」を関連診療科と医療ソーシャルワーカーで総合的に診療するチームを結成いたしました。複数診療科でのチーム診療は、中四国地方では当院が初となります。

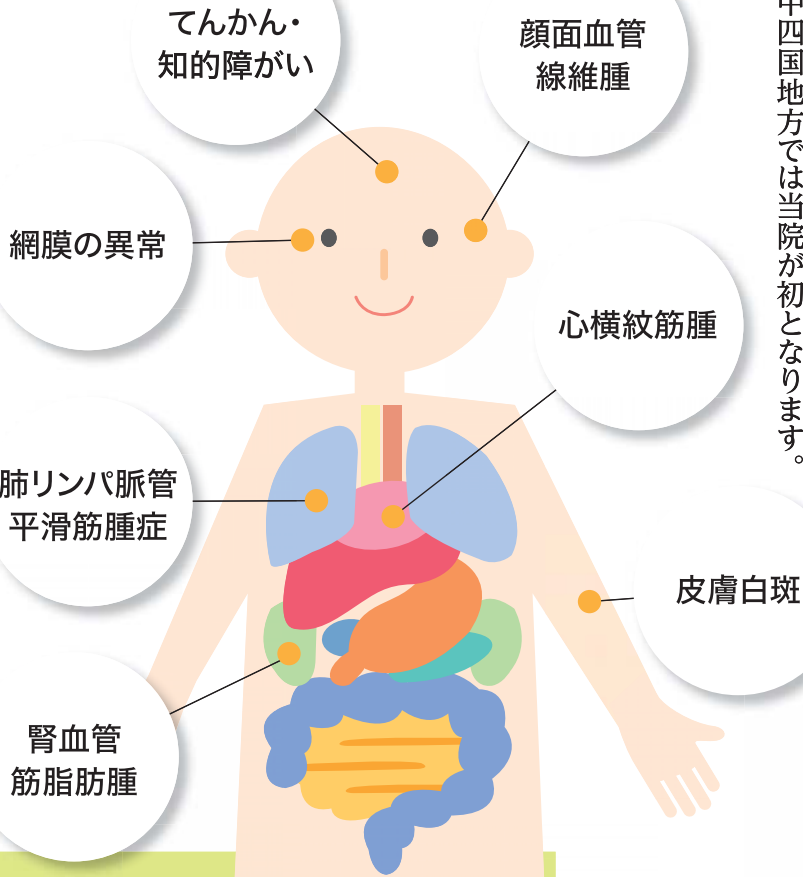


記者発表の様子

当院の取り組み

これまでは患者さんの症状ごとに各診療科が個別に対応してきましたが、腫瘍に有効な治療薬が近年開発されるなど、結節性硬化症により生じる全ての症状に対応できるようになりました。そこで、合併症や将来起こりうる症状も見据え、適切な時期に検査と治療を効率的に行うことを目的に「結節性硬化症診療チーム（TSCチーム）」を結成いたしました。

チームの結成により院内の関連する診療科の連携体制を強化し、患者さんにとって適切な治療に取り組んでまいります。



診療チーム

泌尿器科	皮膚科	脳神経小児科
放射線科	小児科	脳神経外科
眼科	呼吸器内科	循環器内科
歯科口腔外科	遺伝子診療科	医療ソーシャルワーカー

▶ 結節性硬化症とは

全身の疾患で、脳、腎臓、皮膚などさまざまなところに症状が出る病気です。出生時から成人期まで、年齢によっても出る症状は異なります。国内では1万人に1人の発症率で、小児慢性特定疾病と難病認定されています。

【主な症状】

てんかんや白斑のほか、顔面のぼつぼつしたニキビ様の良性腫瘍（血管線維腫）、腎臓の腫瘍（血管筋脂肪腫）、知的障害や自閉症などが高頻度に見られます。また脳（脳腫瘍や結節）や心臓（心横紋筋腫）、眼（網膜過誤腫）、肺（リンパ脈管平滑筋腫症、LAM）、歯など多くの臓器に症状が発生します。

紹介状を持参しましょう

ご負担いただく金額が変わりました

地域には診療所から中小病院、大病院と様々な医療施設があり、国の定めた制度により、その機能や特質に応じて役割を分担することが進められています。当院は高度な医療を提供する「特定機能病院」として、地域の病院・診療所からの紹介状を持参していただくことをお願いしています。このたび平成28年4月1日より、紹介状をお持ちにならずに当院で受診された場合、通常の診療費のほかに、ご負担いただく特別料金（選定療養費）の金額が変わりました。普段から、かかりつけ医を決めて診察や相談をすることで、誰もが症状にあった医療施設でスムーズに受診できることにつながります。



選定療養費

初診の場合
5,400円（歯科：3,240円）
再診の場合
2,700円（歯科：1,620円）

※「初診」とは、他の医療機関からの紹介状なしで、初めて受診した場合
※「再診」とは、本院から他の医療機関（かかりつけ医等）に紹介をされた患者さんが、かかりつけ医の紹介状なしで、患者さんの意志により本院を受診した場合

院内にコンビニが
グランドオープン

病院内専門のローソン「ホスピタルローソン」

一般財団法人恵仁会が運営しております当院内の売店は、平成28年4月5日にコンビニエンスストア「ローソン」としてリニューアルオープンしました。営業時間はこれまでと変わりませんが、店内は、レジや商品棚の高さを低くしたり通路幅を広くとるなどバリアフリーへの配慮や医療衛生用品の品揃えを充実するなど、病院内であることを考慮した店舗となっています。また、ロビーや郵便ポストを設置しているほか、宅配便、インターネット商品の取り扱いなどのサービスを提供しています。



「ローソン鳥大病院恵仁会店」営業時間 平日、土曜日：8時から20時まで／日曜日、祝日：8時から18時まで

職員2,000人
総活躍！

とくだい病院を支えるスタッフ



第1回
看護アシスタント
（看護助手）

看護アシスタントは、主に患者さんの身の回りのお世話や看護師の補助業務を行っています。例えば、入院患者さんを検査や処置のために、外来や検査室、レントゲン室などに付き添って院内を移動します。看護アシスタントがこれらの業務を受け持つことで、看護師は医師との連携やナースコール対応など病棟業務、看護ケアに集中でき、患者さんの安全を守ることにつながっています。

他にも、以前は看護師が行っていた配膳を、今は看護アシスタントが担当しています。忙しい看護師に代わって、患者さんをお待たせしないよう時間通りに、声がけをしながら食事を配ることができています。

また希望者には、スキルを習得するためのスペシャリスト育成研修（院内認定制度）があり、現在17人の方が認定されました。看護アシスタントは、より質の高い看護ケアを提供する上で、大切な役割を担っています。

病気に負けず!! 予防栄養

第3回

しっかり食べてロコモを予防

今回は最近話題のロコモティブシンドローム（略称：ロコモ 和称：運動器症候群）について話します。

ロコモとは、運動器の障害（腰痛、ひざ痛）のために移動機能の低下した状態のことを言い、将来要介護となるリスクが高まります。運動器に問題がなくても、運動習慣がなければ将来的にロコモになる可能性はあります。運動はととても大切ですが、栄養が不足しないことはもっと重要です。今回はロコモ予防の食事について考えてみましょう。

① 太りすぎも痩せすぎも要注意

体重が増えると膝や腰に負担がかかり、ロコモの原因になります。一方、骨や筋肉の量が減り痩せすぎても、ロコモのリスクが高まります。

② 偏りなく食べる

五大栄養素（炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）を1日3回の食事で補うことが大切です。主食、主菜、副菜に、牛乳・乳製品や果物を組み合わせると、5つの栄養素がバランスよくとれます。

主食 炭水化物を多く含む ご飯、パン、麺類 主菜 たんぱく質を多く含む 肉、魚、卵、大豆製品 副菜 ビタミン、ミネラルを多く含む 野菜、海藻

③ 筋肉、骨の素をとる

高齢になると野菜中心になりがちですが、筋肉や骨の素になるたんぱく質、カルシウム、ビタミンDを毎日とることも重要です。

例えばこんな献立

主食
ひじきご飯（ひじき、大豆、しらす）
主菜
鮭のチーズ焼き 温野菜添え（ブロッコリー、パプリカ、干椎茸）
副菜
ポテトサラダ（じゃが芋、玉ねぎ、小松菜、ハム）
デザート
果物入り無糖ヨーグルト

